

第 13 回(2015 年)

マーサーMPA アワード受賞運用プロダクト概要

目次

1. マーサーMPA アワード受賞会社一覧	1
2. マーサーMPA アワードとは?	3
3. 国内株式大型部門受賞運用プロダクト概要	4
• アバディーン投信投資顧問株式会社	4
• 野村アセットマネジメント株式会社	5
• スパークス・アセット・マネジメント株式会社	6
• ブラックロック・ジャパン株式会社	7
• フィデリティ投信株式会社	8
• 日興アセットマネジメント株式会社	9
• みずほ信託銀行	10
• 株式会社 りそな銀行	11
4. 外国株式部門受賞運用プロダクト概要	12
• ニッセイアセットマネジメント株式会社	12
• ウェリントン・マネージメント・ジャパン・ピーティーイー・リミテッド	13
• DIAM アセットマネジメント株式会社	14
5. 外国債券部門受賞運用プロダクト概要	15
• ピムコジャパンリミテッド	15
• ベアリング投信投資顧問株式会社	16
• ラッセル・インベストメント株式会社	17
6. 国内債券部門受賞運用プロダクト概要	18
• 明治安田アセットマネジメント株式会社	18
• 東京海上アセットマネジメント株式会社	19
• みずほ信託銀行	20
7. 国内株中小型部門受賞運用プロダクト概要	21
• 大和住銀投信投資顧問株式会社	21
• パインブリッジ・インベストメンツ株式会社	22
• 三井住友アセットマネジメント株式会社	23

1

マーサーMPA アワード受賞会社一覧

第13回マーサーMPAアワード受賞会社は次の表の通りです(カテゴリー内はあいうえお順)。本書は、受賞運用会社から提供された情報をもとに、各運用プロダクトの概要をマーサーがまとめたものですが、作成時点で情報提供がない受賞プロダクトの概要は掲載されていません(カテゴリー内での掲載順は、原則的に情報提供の順です)。

国内株式大型部門 (5年)	
アバディーン投信投資顧問	フィデリティ投信
スパークス・アセット・マネジメント	ブラックロック・ジャパン
日興アセットマネジメント	みずほ信託銀行
野村アセットマネジメント	りそな銀行
外国株式部門 (5年)	
ウエリントン・マネージメント・ジャパン	DIAMアセットマネジメント
MFS インベストメント・マネジメント	ニッセイアセットマネジメント
外国債券部門 (5年)	
ピムコジャパンリミテッド	ラッセル・インベストメント
ベアリング投信投資顧問	
国内債券部門 (3年)	
東京海上アセットマネジメント	明治安田アセットマネジメント
みずほ信託銀行	
国内株式中小型部門 (3年)	
大和住銀投信投資顧問	三井住友アセットマネジメント
バインブリッジ・インベストメンツ	

免責事項

マーサーMPA アワードは過去の定量結果だけによる表彰であり、マーサーが顧客に運用プロダクトを推薦する場合に利用する定性評価とは何の関係もないものです。運用プロダクトのリターン・データは運用報酬控除前であり、顧客が利用する際には、運用報酬の違いを考慮する必要がありますので、表彰対象と同じ期間に表彰された運用プロダクトを使っている場合でも、表彰と同一の結果を受けられるわけではありません。また、表彰に利用した評価基準が適切な方法であると保証するものではありませんし、表彰のために使ったデータや計算が正しいものであると保証するものでもありません。マーサーはこのアワードを受けた運用会社について何の保証をするものでも責任を持つわけでもありません。過去の実績は将来のリターンを保証するものではありません。

本書でまとめた各社の運用概要は真実であると思われる内容を掲載していますが、事実と異なるとしてもマーサーが責任を負うわけではありません。また、マーサーはこれらの運用を推薦、あるいは媒介・販売する意図を持って掲載しているわけではありません。

本件に関する問い合わせ先

マーサージャパン株式会社

資産運用コンサルティング

03-5354-1461(代表) investment.japan@mercer.com

2

マーサーMPA アワードとは？

マーサーMPA アワードとは、マーサー ジャパンが日本における企業年金あるいは機関投資家向けのコンサルティング・サービスを提供するために、収集・管理している円ベースの運用リターンの中から、優れた結果を達成した運用プロダクトを讃えるものです。賞の名前は、マーサーで運用リターンを分析するソフトウェアの名前(MPA=Manager Performance Analytics)をとったものです。

アワードの対象とする円ベースの運用リターンは、マーサーのグローバルなデータベースであるGIMDに運用機関が入力したデータの中から、マーサージャパンが選定してパフォーマンス・ユニバースに登録したものを対象としています。ユニバースへ登録されるリターンは運用機関が過去に溯って入力したデータは対象としていません。アワードの選定基準は以下のとおりです。

選定基準

- 企業年金運用における主要なカテゴリー毎に5年あるいは3年で、トータル・リターンと代表的なインデックスに対するインフォメーション・レシオをそれぞれ基準化した数字を合計して、カテゴリー内の上位10%(但し、最大8プロダクトまで)あるいは上位3位のファンドの多いほうを選定しています(なお、国内株中小型、国内債券と外国債券はトータル・リターンのみ)。
- 選定基準日時点におけるデータの入力
- 日本国内に拠点を持つ運用機関が提供する運用プロダクト
- 受賞意思の表明
- 登録運用リターンの正確性の確認
- 表彰対象期間に対象運用プロダクトで継続的に5億円以上の顧客資産額
- 対象カテゴリーの特性に合致(対象期間の対象ユニバースの資産の組み入れ比率が最低時点でも80%以上でかつ平均で90%以上など)
- 実際に独立した運用としてのリターンの計算(グローバル株式運用で日本株を除くなどの計算は不可)

3

国内株式大型部門受賞運用プロダクト概要

アバディーン投信投資顧問株式会社

運用戦略名	アバディーン日本株式運用戦略
会社概要	アバディーン投信投資顧問株式会社は、英国を本拠地としてグローバルに資産運用業務を展開するアバディーン・アセット・マネジメント・グループの日本法人です。親会社であるアバディーン・アセット・マネジメント PLC は、ロンドン証券取引所に上場し、英国の代表的株式指数である FTSE100 インデックスに採用されています。2015 年 3 月末時点のグループ全体の運用資産額は約 59 兆円(1 ポンド=178 円で換算)です。
運用手法の概要・特徴	企業訪問を通して調査を行うボトムアップ・アプローチを採用しています。日本株式市場の全銘柄の中から、まず「企業の質」の観点から企業分析を行い、独自の投資ユニバースを組成します。次にそれらの銘柄を「バリュエーション」の観点から、継続的に分析し、絞り込んだ上でポートフォリオを構築します。 日本国内に拠点を置く日本株式運用チームが運用を担当します。ファンドマネジャーはアナリスト業務にも従事しており、チームの合議制で投資意思決定を下します。アバディーン・グループ全体のリソースも、適宜活用します。
ポートフォリオのリスク特性	TOPIX をベンチマークとしていますが、ベンチマークと乖離する投資配分となることを厭いません。トラッキング・エラーの実績値は概ね 4~10%程度で推移しています。
付加価値の源泉	個別銘柄選択(組入銘柄数は 40 銘柄程度)を付加価値の源泉としています。

野村アセットマネジメント株式会社

運用戦略名	日本株式アクティブグロース
会社概要	<p>野村アセットマネジメントは、野村ホールディングス株式会社を持株会社とする野村グループの資産運用会社です。</p> <p>1997年10月、野村証券投資信託委託株式会社(1959年設立)と野村投資顧問株式会社(1981年設立)が合併し、日本を代表する資産運用会社として、早くから運用と顧客基盤のグローバル化に取り組み、海外への積極的な展開を図っています。</p> <p>企業理念として、「最高の付加価値の創造」・「高度な専門性の追求」・「信頼の獲得と社会への貢献」を掲げています。</p>
運用手法の概要・特徴	<ul style="list-style-type: none"> ◆景気循環を乗り越えて高ROEを維持できる優良企業を特定し、長期投資を行います。 ◆短期(2~3年)程度の独自の成長機会を有する企業を発掘し、機動的に投資します。 ◆景気循環・市場環境に依拠せず、上記2つの成長に特化した調査活動により銘柄を選別し、超過収益獲得を目指します。
ポートフォリオのリスク特性	<p>ベンチマーク: TOPIX (配当込み) (参考指数 Russell/Nomura Growth インデックス)</p> <p>目標超過収益率: 4% (年率)</p> <p>想定トラッキング・エラー: 8% (年率)</p>
付加価値の源泉	ボトムアップ・リサーチに基づく個別銘柄選択 100%です。

スパークス・アセット・マネジメント株式会社

運用戦略名	スパークス日本株式長期厳選投資戦略
会社概要	<p>SPARX は 1989 年 7 月の創業以来、独立系の投資顧問会社として日本株を中心に企業への個別訪問によるボトムアップ・リサーチを軸に資産運用を行っています。「世界で最も信頼・尊敬されるインベストメント・カンパニー」になるというビジョンのもと、最良のインベストメント・インテリジェンスを投資家に届けることを目指しています。</p>
運用手法の概要・特徴	<p>日本の上場株式全てを投資対象とし、長期にわたって保有が可能と考える限られた数のコア銘柄に投資を行います。SPARX にとって、株式投資とは企業の一部を所有することと同じことであると考えています。創業以来、「マクロはミクロの集積である」という投資哲学の下、個別企業調査が株式投資においてリターンを最大化させると同時に最大のリスクヘッジになると考えています。当戦略では、魅力的な企業には以下のような共通点があると考えています。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ビジネスモデルがシンプルで理解しやすい、 2. 本質的に安全なビジネス、 3. 有利子負債が少ない強固なバランス・シート、 4. 高い参入障壁に守られたビジネス、 5. 持続可能な高 ROE とそれに見合う利益成長、 6. 景気動向に左右されず潤沢なキャッシュフローを生み出している、 7. 資本コストを理解し、最適資本配分ができる卓越した経営陣
ポートフォリオのリスク特性	<p>目標となるトラッキング・エラーや期待収益率はありません。ただし、当投資戦略の代表ファンドにおける年率ベースでの実績トラッキング・エラーは 8%程度です。</p>
付加価値の源泉	<p>当戦略の追求するアルファの源泉は全てボトムアップ・リサーチに基づく純粋な個別銘柄選択です。</p>

ブラックロック・ジャパン株式会社

運用戦略名	ジャパン・アルファ・アドバンテージ戦略
会社概要	<p>ブラックロックはグローバルに資産運用ビジネスの他、リスク・マネジメント、アドバイザー・サービスを機関投資家、個人投資家等に提供している資産運用会社です。株式、債券、オルタナティブから資産配分戦略に至るまで幅広いラインアップを提供しています。</p>
運用手法の概要・特徴	<p>日本市場の株式を投資対象とした、日本株式アクティブ戦略です。「投資は科学である」という投資哲学のもと、独自開発計量モデル「コア・アルファ・モデル」を用いたクオンツ手法により行います。リスクコントロール型アクティブの考え方のもと、一定のリスク許容範囲内でポートフォリオ全体のリターンを最大化するように個別銘柄選択を行い、超過収益を追求する戦略です 買い持ち制約を一部撤廃することにより投資効率を上げ、IR（アクティブ・リターン／アクティブ・リスク）を低下させることなく、より高いアクティブ・リスクに見合ったアクティブ・リタンの獲得を目指します。</p>
ポートフォリオのリスク特性	<p>目標アクティブ・リターン 2～4%（年率、報酬控除前） 推定アクティブ・リスク 2～4%（年率） 業種配分はベンチマークに同等、また、株式市場に対する感応度（ベータ値）は、「1」にコントロールします。</p>
付加価値の源泉	<p>超過収益の源泉は、主に個別銘柄選択としています。</p>

フィデリティ投信株式会社

運用戦略名	フィデリティ・ジャパン・グロース
会社概要	<p>フィデリティ投信株式会社は、独立系資産運用グループのフィデリティ・ワールドワイド・インベストメントの一員として、投資信託および、企業年金や機関投資家向け運用商品やサービスを提供する資産運用会社です。1969年に外資系運用会社として初めて本邦に拠点を設け、日本企業の調査を開始。1990年より日本の年金向け運用業務に参入、1995年に証券投資信託委託業務免許を取得し、同年12月に最初の国内投資信託を設定しました。公募投資信託の純資産残高は約3.3兆円、外資系運用会社では首位となります(2015年3月末現在)。</p>
運用手法の概要・特徴	<p>当該運用戦略の特徴をまとめると以下のようになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 社内外の多面的な情報ソースに基づくファンダメンタルズの分析と、様々なバリュエーション指標やバランスシート分析によるスクリーニングから、新しいテーマや銘柄を継続的に発掘 ・ 中期的な収益成長が見込め、割安な銘柄が中小型株市場には多く存在しており、調査対象銘柄以外であっても市場がその企業価値を認識する前の段階で発掘し、ポートフォリオに組み入れ ・ 銘柄、業種の相対組入れ比率、ならびにトラッキング・エラーは基本的に、個別銘柄の選択の結果を反映。厳密な管理目標値の設定は行っていないが、継続的にモニタリングを実施
ポートフォリオのリスク特性	<p>目標超過収益率：2.5～3.5%以上 推定トラッキング・エラー：通常6～10%</p>
付加価値の源泉	<p>ボトムアップ・アプローチによる個別銘柄選択を100%としています。</p>

日興アセットマネジメント株式会社

運用戦略名	日興 AM 日本株エンハンスインデックス戦略
会社概要	<p>日興アセットマネジメントは、1999年4月、日興証券投資信託委託株式会社と国内外の年金運用で高い実績を誇る日興国際投資顧問株式会社が合併、発足し、55年超の歴史を有します。2015年3月現在、英国、米国、シンガポール、シドニー等海外現地法人等を含む従業員総数は約1,400名を擁し、19兆円を超える受託資産残高を運用しています。</p>
運用手法の概要・特徴	<p>ベンチマークに対し中長期的に安定した超過リターンの獲得を目指すクオンツ運用です。</p> <p>当社独自開発の期待アルファモデル「N.ALPHA」および運用サポートモデル「N.シリーズ」を活用し、期待アルファ算出と信用リスクや取引コストも考慮した効率的なポートフォリオ構築を行います。</p> <p>「N.ALPHA」は、理論株価の上昇を捉えるリスクプレミアム・理論株価への収束を捉えるミス・プライシング・投資家の行動特性を捉える行動ファイナンスといった3つの独立したアプローチから期待アルファを算出します。</p>
ポートフォリオのリスク特性	<p>ベンチマーク : TOPIX(配当込み)</p> <p>トラッキング・エラー : 1~2%程度</p> <p>当社独自開発の最適化モデル「N.RISK-OPT」によりポートフォリオ構築を行います。</p>
付加価値の源泉	<p>「N.ALPHA」モデルによる個別銘柄選択が付加価値の源泉です。</p>

みずほ信託銀行

運用戦略名	国内株式リサーチ・グロース
会社概要	みずほ信託銀行は、年金運用などを扱う公的機関や企業年金等、幅広い顧客に対して、さまざまな運用戦略のファンドを提供するとともに、顧客の基本的な資産配分や運用戦略の組み合わせに関するアドバイスなど、顧客の多様なニーズに合わせたサービスを提供しています。
運用手法の概要・特徴	ボトムアップアプローチによるリサーチを通じて企業の潜在的な成長力を捉え、株式市場で十分な評価を得られていない段階で投資することにより、中長期的にベンチマークに対する超過収益の獲得を目指す成長型のアクティブファンドです。「長期的な視点」による企業分析・評価と、「健全な懐疑心」による市場へのチャレンジという二つのマインドセットを組織の理念として重視するとともに、個別銘柄選択に際しては、投資機会における確信度を高めるために「アナリストとファンドマネジャーとの間の活発な議論(=擦り合わせ)」を重視しています。
ポートフォリオのリスク特性	<ul style="list-style-type: none"> ・ ベンチマーク: TOPIX 配当込み ・ 目標超過収益率: +3.0% ・ 主なリスク管理項目: 推定トラッキングエラー10%以内(バーラモデル)
付加価値の源泉	付加価値の源泉は、インハウスアナリストの企業調査に基づく潜在成長力評価をベースとした個別銘柄選択効果(定性 100%)です。

株式会社 りそな銀行

運用戦略名	りそな市場型／株式口A
会社概要	<p>当社の信託財産運用部門は、1962年に大和銀行(現りそな銀行)の年金運用部門として創設され、以降約50年にわたり資産運用会社として活動を行っています。その間、2002年3月に会社分割により大和銀信託銀行(後にりそな信託銀行に社名変更)として一旦独立しましたが、その後2009年4月にりそな銀行と合併し、新たなスタートを切っています。</p>
運用手法の概要・特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・バリューやグロースといった特定のスタイルにこだわることなく、投資家の期待値(=市場コンセンサス)の変化がもたらす株価変動を予測することで、どのような局面でも安定した超過リターンを獲得を目指す運用です。 ・ファンドマネジャー、アナリスト、ストラテジストの三者が一体となって動く「機動力・修正力」を特長して位置付けています。お互いの専門性を尊重しつつ、それぞれが当該運用の専任となってパフォーマンスにコミットすることで、チームの一体感の強化に努めています。 ・市場コンセンサスの把握に注力する一方、発生した事実の裏付け調査を行うことで、確実性の高い銘柄選択に努めています。また、S(社会)に注目したユニークなESG評価のアプローチを運用プロセスに組み込み、銘柄分析の深掘りを通じて投資確度の向上を図っています。
ポートフォリオのリスク特性	<p>幅広い投資機会を追求する運用となり、結果としてリスクは分散され、低位で安定しています(トラッキング・エラーの中心値: 3%)。ファクターリスクの特性には特徴はありませんが、そのなかで「モーメンタム」の値がプラスとなる傾向があります。これは、業績の上方修正トレンドが続く銘柄を選好して組み入れていることが要因となります。</p>
付加価値の源泉	<p>付加価値の源泉としては、個別銘柄選択(70%)、業種配分(30%)をイメージしています。</p>

4

外国株式部門受賞運用プロダクト概要

ニッセイアセットマネジメント株式会社

運用戦略名	ニッセイ AM パナゴラ・ダイナミック・グローバル株式
会社概要	<p><ニッセイアセットマネジメント株式会社> ニッセイグループの資産運用力を結集した資産運用会社。1995年設立。受託資産残高は約8.6兆円。</p> <p><パナゴラ・アセット・マネジメント> 米国ボストンのクオンツ運用会社で、1985年から運用を開始。受託資産残高は約5兆円。</p>
運用手法の概要・特徴	<ul style="list-style-type: none">・ パナゴラ・アセット・マネジメントの計量モデルを活用した個別銘柄選択により安定的な超過収益を追求する外国株式運用。・ パナゴラ独自の「個別銘柄対応アルファ・モデル」を活用することにより、「分析対象の広さ」に加え、「分析の深さ」を目指す。・ クオンツ運用担当者による継続的、かつ先進的なリサーチ(モデル開発・改良)への取り組み。
ポートフォリオのリスク特性	目標トラッキングエラー: 1~3%
付加価値の源泉	付加価値の源泉は、個別銘柄選択 100%。

ウエリントン・マネージメント・ジャパン・ピーティーイー・リミテッド

運用戦略名	グローバル・オポチュニティーズ(除く日本)
会社概要	<p>ウエリントン・マネージメントは、世界最大級の独立系投資運用会社であり、投資運用を専業としています。日本においては、1997年に東京支店を設立して以来、国内の顧客に運用サービスを提供してきました。2015年3月現在、ウエリントン・マネージメントの運用資産総額は約9,398億ドル(約113兆円)に達し、世界50カ国以上の顧客に、グローバル株式、債券、通過、コモディティに至るまで多岐にわたる運用アプローチを提供しています。</p>
運用手法の概要・特徴	<p>グローバル・オポチュニティーズ(除く日本)は、企業が保有する資産の真の収益率と投下資本利益率の改善に着目したグローバル・コア・アプローチを採用しています。運用プロセスではファンダメンタル調査を重視し、銘柄選択は特定の投資スタイルに偏向せず、機動的に行います。また、バリューおよびグロース双方の銘柄群にオポチュニスティックに投資を行うことで、投資機会の最大化を追求します。</p>
ポートフォリオのリスク特性	<p>当戦略の投資目標は、3～5年の投資期間においてMSCIコクサイ指数に対して年率2%(報酬控除前)以上のリターンを獲得することです。トラッキング・エラーの目標値は設定していませんが、通常、年率3～6%程度の水準になることを想定しています。</p>
付加価値の源泉	<p>個別銘柄選択に70%、国別配分およびセクター配分に30%の付加価値源泉を求めます。国別配分およびセクター配分はボトムアップの銘柄選択プロセスの結果として決まります。</p>

DIAM アセットマネジメント株式会社

運用戦略名	外国株式エンハンスインデックス
会社概要	<p>DIAM は、1999 年 10 月、第一ライフ投信投資顧問、興銀 NW アセットマネジメント、日本興業投信の3社が合併して設立された資産運用会社です。『For The Customer』の精神のもと、グローバルなネットワークを活かし内外の顧客に対し運用サービスを提供します。</p>
運用手法の概要・特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・ 国際分散投資を行い、安定的でかつ高いインフォメーションレシオの実現を目指す、クオンツ手法によるエンハンスインデックス運用です。 ・ 北米(米国・カナダ)、欧州、アジア・太平洋(除く日本)の3つの地域それぞれにおいて業種別モデルを構築することで、業種ごとの特性に応じて個別銘柄に対する投資魅力度を定量的に評価します。 ・ 地域配分、業種配分ともに、ベンチマーク構成比に対しおおむね中立となるようにポートフォリオの組入比率を管理し、リスクコントロールに細心の注意を払います。
ポートフォリオのリスク特性	<p>ベンチマークは、MSCI コクサイ・インデックス（円換算ベース、配当込み、為替ヘッジなし）です。</p>
付加価値の源泉	<p>超過収益の源泉は、個別銘柄選択です。</p>

5

外国債券部門受賞運用プロダクト概要

ピムコジャパンリミテッド

運用戦略名	ピムコ外国債券運用
会社概要	<p>PIMCO グループは 1971 年に設立された、グローバルに運用拠点を構える世界最大級の債券運用残高を有する運用会社です。</p> <p>2015 年 3 月末時点の PIMCO グループの受託資産残高は約 1.20 兆ドル(アリアンツ・グループ関係会社からの受託残高を除く)となっており、日本における受託資産額は約 9 兆 8061 億円にのぼります。</p>
運用手法の概要・特徴	<ol style="list-style-type: none"> 1) コアアプローチ: ベンチマーク並みにリスクをコントロールした上で、超過収益をあげることを目標とします。 2) 短期的な売買に依らない、長期的なファンダメンタルズを重視した運用を行います。 3) 超過収益源泉を可能な限り分散することで、特定の付加価値源泉から来るマイナスがポートフォリオ全体に大きな影響を及ぼさないような運用を志向します。 4) 多様な超過収益源泉を取得することから来る、多様なリスクを管理するリスク管理システムで意図しないリスクの排除を目指します。
ポートフォリオのリスク特性	<p>ベンチマークであるシティグループ世界国債インデックス(除く日本、円ベース)に対して、年率 1.0-1.5%の超過収益を報酬等控除前で達成することを目標としています。</p> <p>また、推定トラックング・エラーは最大で年率 2-3%で管理することを目標とします。</p>
付加価値の源泉	<p>中長期的に、トップダウン(デュレーション、イールドカーブ、通貨)戦略 50%、ボトムアップ戦略(セクター、銘柄選択、裁定取引)50%の比率で付加価値を実現することを目標とします。</p>

ベアリング投信投資顧問株式会社

運用戦略名	外国債券
会社概要	<p>ベアリング投信投資顧問株式会社の概要 役職員数: 26名(派遣社員、契約社員等を含む) 母体企業: ベアリング・アセット・マネジメント・リミテッド(ロンドン) 日本における運用受託資産残高: 4,137億円 (日本の顧客がベアリング・グループの海外の再委託先と直接締結している海外直接契約を含む)</p> <p>ベアリング・アセット・マネジメント・リミテッド(再委託先)の概要 資本金: 80百万£(142億円) 役職員数: 372名 主要株主: マスミューチュアル・ホールディングズ(バミューダ) 運用受託資産残高: 1兆866億円 (2015年3月末現在)</p>
運用手法の概要・特徴	<p>債券運用におけるベアリングの特長は以下の4点と考えています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ グローバル・マクロ経済分析に主体を置いたトップダウン・アプローチにより、金利戦略を中心に超過収益の獲得を目指します。 ・ 複数のマクロ経済シナリオを活用した投資プロセスを採用することにより、単一シナリオに基づく投資判断によるリスクを回避し、パフォーマンスのダウンサイドを抑制します。 ・ 現物債券にのみ投資を行う透明性の高いポートフォリオです。 ・ 平均運用経験年数27年、ベアリングでの平均在籍年数が12年にのぼる日本人を中心とした円ベース・ポートフォリオ構築グループが運用を担当します。
ポートフォリオのリスク特性	<p>推定トラッキング・エラー: 1.96%(バーラモデル) デュレーション: 8.8年(ベンチマーク: 6.9年) (2015年3月末現在)</p>
付加価値の源泉	<p>デュレーション戦略 : 40% イールドカーブ戦略 : 10% 債券国別配分戦略 : 20% 通貨配分戦略 : 20% クレジット戦略 : 10%</p>

ラッセル・インベストメント株式会社

運用戦略名	ラッセル 外国債券マザーファンド
会社概要	<p>設立：1999年3月9日 資本金：16億950万円 事業内容：金融商品取引業、資産運用コンサルティング業 登録・加入協会：金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第196号、一般社団法人投資信託協会、一般社団法人日本投資顧問業協会 (2015年3月31日現在)</p>
運用手法の概要・特徴	<p>ラッセルは、真に優秀な運用機関はアクティブ運用により付加価値を生み出すことができると考えています。また、優秀な運用機関を評価・発掘し、十分吟味した複数の運用スタイルに分散投資し、個別運用機関やポートフォリオ全体を継続的にモニタリングすることにより、安定的な収益の実現が可能になると考えています。異なる運用スタイルを持つ運用機関を最適な割合で組み合わせるマルチ・マネージャー運用により、金利予測、満期構成、債券種別選択、国別配分、通貨配分、個別銘柄選択といった債券運用における超過収益の源泉や運用プロセスの分散を図り、リスクをコントロールしながら超過収益の獲得を目指します。</p>
ポートフォリオのリスク特性	<p>特徴のある運用手法を最大限生かすため、それぞれの運用機関には高いトラッキング・エラーを許容する一方、補完性のある手法(リターンに負の相関がある)を組み合わせることで、ファンド全体のリスクの軽減を図ります。</p>
付加価値の源泉	<p>デュレーション：35% イールドカーブ：15% 通貨配分：20% 債券種別選択：20% 個別銘柄選択：10% これらの想定割合は、組入れた運用会社が、独自の判断に基づく運用の結果としてとっている一般的なリスクの集積を想定したものです。</p>

6

国内債券部門受賞運用プロダクト概要

明治安田アセットマネジメント株式会社

運用戦略名	日本債券アクティブ
会社概要	<p>明治安田アセットマネジメントは、2010年10月、MDAMアセットマネジメント(旧明治ドレスナー・アセットマネジメント)と安田投信投資顧問が合併し発足した資産運用会社です。</p> <p>明治安田生命グループの中核の資産運用会社として、高品質の資産運用サービスの提供を目指しています。</p>
運用手法の概要・特徴	<p>NOMURA-BPI 総合指数をベンチマークとし、これを上回る投資成果を目指します。</p> <p>債券運用においては、トップダウンリサーチによる金利の水準・期間構造の変化を生み出す中期的なマクロ経済トレンドの分析・予測に重点を置き、アクティブなデュレーションの変更、イールドカーブ戦略等により付加価値の追求を行います。一方で、短期的なファクターによる市場リスク増大に対しても迅速に対応することで収益率向上を図ります。</p> <p>クレジット戦略では、クレジット・サイクル分析(種別選択)とアナリストによる信用力分析(個別銘柄選択)が投資判断の基準となります。信用力分析では償還までの保有が可能であることを最重要事項としながらも、ファンド管理上は流動性リスク等へも配慮した戦略運営を行っています。</p>
ポートフォリオのリスク特性	<p>ベンチマーク: NOMURA-BPI 総合</p> <p>目標超過収益率: 0.5% (年率)</p> <p>推定トラッキング・エラー: 0~1.5%</p>
付加価値の源泉	<p>金利選択(デュレーション+イールドカーブ: 70%)</p> <p>クレジット戦略(種別構成選択+銘柄選択: 30%)</p>

東京海上アセットマネジメント株式会社

運用戦略名	東京海上 AM 国内債券ハイアルファ
会社概要	<p>東京海上アセットマネジメント株式会社(TMAM)は 1985 年 12 月に設立された資産運用会社です。企業年金など機関投資家や事業法人の顧客向けの投資顧問業務と個人の顧客向けの公募投信の運用などを行っています。</p> <p>当社は、「独自の徹底的な調査と分析を投資の原点に置く」との一貫した運用哲学を全社員が共有し、多様なニーズに応える幅広いラインアップ、きめ細かな顧客サービス、コンプライアンスの遵守などにより受託者責任の完遂を目指しています。</p>
運用手法の概要・特徴	<p>NOMURA-BPI(総合) + αを狙うアクティブ運用。イールド戦略、スプレッド戦略および個別銘柄選択を付加価値とします。金融派生商品を活用することにより、従来型(国内債券アクティブ(総合型)より高いアルファ(超過収益)の獲得を目指します。</p> <p>イールドおよびスプレッドベータを中心としたトップダウン戦略と、ボトムアップ戦略(個別銘柄選択)という複数の戦略へバランスよく分散投資し運用効率を高めることで、長期にわたり安定的な運用を行います。各種デリバティブ商品を活用することで、戦略の多様化・分散化を高め超過リターン目標達成の確実性を高めます。国内籍投信形態での提供とし、各種デリバティブ商品への投資は国内籍投信から特金信託を通じて行います。</p> <p>債券個別ポートフォリオに基づく TMAM USA からの個別投資助言を活用します。</p>
ポートフォリオのリスク特性	<p>ベンチマーク : NOMURA-BPI(総合)</p> <p>目標収益率 : 年率 1.0%程度</p> <p>想定リスク水準 : 年率 2.0%以下</p>
付加価値の源泉	<p>超過収益の源泉は、イールド 70%、スプレッド 30%です。</p>

みずほ信託銀行

運用戦略名	国内債券クレジット・スプレッド
会社概要	みずほ信託銀行は、年金運用などを扱う公的機関や企業年金等、幅広い顧客に対して、さまざまな運用戦略のファンドを提供するとともに、顧客の基本的な資産配分や運用戦略の組み合わせに関するアドバイスなど、顧客の多様なニーズに合わせたサービスを提供しています。
運用手法の概要・特徴	<p>対国債スプレッドの伸縮が、信用力要因・市場要因で起こり得るとの認識から、これらに影響を与える評価項目を具体的に絞り込み、トップダウン・ボトムアップ両アプローチによる要因分析を行うことで、超過収益獲得の可能性が高まるものと考えています。</p> <p>以下の3点を当ファンドの特徴(強み)として位置付けています。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「信用力重視」の銘柄選択 2. 長期にわたるリサーチのノウハウ蓄積 3. クレジット戦略におけるファンド規模
ポートフォリオのリスク特性	野村 BPI(総合)をベンチマークとし、クレジットリスクに特化した戦略です。
付加価値の源泉	個別銘柄選択 100%でアクティブリターンを追求します。

7

国内株中小型部門受賞運用プロダクト概要

大和住銀投信投資顧問株式会社

運用戦略名	国内株式中小型
会社概要	<p>大和住銀投信投資顧問は、前身である大和投資顧問、住銀投資顧問、エス・ビー・アイ・エム投信が 1999 年4月に合併し設立。1973 年大和投資顧問設立以来、40 年に亘る投資顧問の歴史を有しております。「アクティブ運用による超過収益の安定的確保」を投資哲学とし、内外株式・内外債券・資産配分型・オルタナティブを運用する総合的な投信投資顧問会社です。</p>
運用手法の概要・特徴	<p>国内株式中小型は、わが国の株式のうち中小型株が主要投資対象でボトム・アップ・アプローチに基づくアクティブ運用です。 当プロダクトは、株式運用部バリュエーション+αグループの中小型株一筋 24 年超のキャリアを誇るファンドマネジャーが運用を行います。</p> <p>銘柄選択の特徴は以下の通りです。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①市場に看過されている割安銘柄を買って、上昇までじっと待つ ②戦略の信念・・・市場が正常に機能している限りは有効 ③バリュエーション指標として PER を重視 ④割安へのこだわり・・・時間をかけて市場がそれに気付くのを待つ ⑤中長期視点でじっくり保有・・・短期的事象にとらわれず、中長期的視点で保有を続ける ⑥調査対象は「とにかく幅広く」で延べ 2,600 社をカバー ⑦調査の主目的は「企業の DNA (要するに創業者のキャラクター) をつかむ」こと
ポートフォリオのリスク特性	<p>参考ベンチマークは Russell/Nomura Small Cap インデックス(配当込) 推定トラッキングエラーは特に定めません。</p>
付加価値の源泉	<p>ボトム・アップ・リサーチによる銘柄選択効果のみを付加価値の源泉とします。</p>

パインブリッジ・インベストメンツ株式会社

運用戦略名	パインブリッジ日本小型株式
会社概要	<p>パインブリッジ・インベストメンツ株式会社は、機関投資家および個人投資家に対し、上場株式、債券、プライベート・エクイティ戦略等の多様な投資商品とサービスをグローバルに展開するパインブリッジ・インベストメンツ・グループの日本法人です。世界 18 カ国に広がるグローバル・ネットワークを通じて、幅広い運用ソリューションの提供を目指しています。2015 年 3 月末現在、グループ全体の運用資産残高は、約 759 億ドルとなっています。</p>
運用手法の概要・特徴	<p>グロースかバリューかどちらかのスタイルが長期にわたり優位性を保ち続けることはないとの考えのもと、グロースとバリュー双方の銘柄を評価し、投資を行います。</p> <p>また一つの企業分析尺度を全ての企業に適用することはできないと考えているため、企業の成長段階によって異なる尺度からの分析を行い、銘柄の発掘を行います。そのため、当社では投資ユニバースを 4 つのカテゴリーに分類し、各カテゴリーに最適な分析を定性・定量両面から実施し、投資機会を追求します。</p>
ポートフォリオのリスク特性	<p>ベンチマーク: MSCI ジャパン・スモールキャップ・デیلیー・トータル・リターン・ネット・インデックス</p> <p>目標収益率: 年率 2.5%(運用報酬控除前)</p> <p>推定トラッキング・エラー: 年率 8%~15%</p>
付加価値の源泉	<p>個別銘柄選択を付加価値の源泉と考えています。</p>

三井住友アセットマネジメント株式会社

運用戦略名	三井住友アセットマネジメント国内株式中小型
会社概要	<p>三井住友アセットマネジメント(SMAM)は、2002年12月に三井住友系保険会社3社と三井住友銀行の運用子会社が合併し誕生しました。「リサーチこそが付加価値の源泉」であるとの信念の下、業界最大級のリサーチ体制を構築しています。リサーチに基づく特徴あるマルチプロダクトを提供することにより、顧客の多様なニーズに対応します。</p>
運用手法の概要・特徴	<p>当ファンドは、ボトムアップ・リサーチにより割安で成長性のある中小型株銘柄に投資するものです。 独自の投資視点「Gro-Val Cha-In(Growth、Value、Change、Information)」を活用し、魅力度の高い銘柄を発掘します。 リサーチについては企業への直接取材を行いません。 3名のファンドマネージャーが年間1000社を超える取材活動をこなすことで、経営者の生の声や直近の情報をタイムリーに入手します。ミーティングはワン・オン・ワン形式を中心に行うことから、経営者との直接面談を通じて、企業の「本質」を把握することが可能と考えています。</p>
ポートフォリオのリスク特性	<p>ベンチマーク：TOPIX(配当込み) スタイルインデックスの対応も可能です。 目標トラッキング・エラー：特に設定していません (BARRAベースで推定10~15%程度の水準)。</p>
付加価値の源泉	<p>個別銘柄選択を付加価値の源泉として考えています。</p>

重要事項

本文書には、マーサー(Mercer LLC 及びその関係会社を含む)の秘密情報及び専有情報が記載されており、マーサーが定めた当事者以外は使用することはできません。本文書の内容の全部又は一部を、マーサーの書面による事前許可を得ることなく修正したり、販売したり、又は他の個人若しくは組織に提供したりすることはできません。

本文書で明示される所見、評価、又は意見は、マーサーの知的財産であり、予告なく変更される場合があります。これらは、検討対象の投資商品、資産クラス、又は資本市場の今後の運用実績に関し、何らかの保証を付与することを意図するものではありません。また、過去の運用実績は、今後の結果を保証するものでもありません。マーサーのレーティングは、個別の投資助言ではありません。

本文書にはお客様の個別の状況を考慮した投資助言は記載されておられません。予め適切な専門家の助言を得ることなく、又はご自身の状況を考慮することなく、本文書の情報のみに基づいて投資決定を行なうべきではありません。

本文書に記載されている情報は、第三者によるさまざまな情報源の中から得られたものです。本文書の情報が信頼できるものであると見なされる限りにおいては、マーサーは独自に当該情報の検証を試みることはありません。したがって、マーサーは提供された情報の正確さに関する表明、保証を行なうことはなく、いかなる第三者によって提供されたデータの誤記、脱漏、誤りに関し、いかなる責任(間接的、派生的、付随的損害を含む)も負いません。

© 2015 Mercer LLC 無断転載禁ず。



Mercer Japan Ltd
Tokyo Opera City Tower 37/F,
3-20-2 Nishi-shinjuku, Shinjuku-ku
Tokyo 163-1437
Japan
+813 5354 1560